

授業 科目名	【G】	_____	区 分		開講年次	【G】-	単位数	【G】-
	【H】	_____	必 履 修			【H】-		【H】-
	【I】	入門ゼミ				【I】1		【I】2
科目区分	基本科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	オムニバス							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	清和大学での学びの入門					担当者	大倉・大西・後藤・園田・渡辺・今井・酒本 谷津・豊岡・百合草・青柳・伊禮・榎本	
授業概要	【概要】	<p>大学での生活や学びをスタートするにあたり、学生に身につけてほしい基礎的な知識とスキルを取り上げます。また、専任教員によるオムニバス形式の講義を通じて幅広い分野に触れる機会を設け、大学での学びに対する興味・関心を喚起します。これらのことを通じて、高校での学びを踏まえながら大学での学びに接続していく初年次教育を行います。</p> <p>【実務(新聞記者)経験を活かした授業:見崎】 新聞社での実務経験を持つ教員が、取材記者としての経験を基に情報収集や分析の方法を具体例とともに伝える。マスメディアの役割やメディアリテラシーの重要性も学び、大学での学びを深めるサポートをする。</p>						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した大学生活を送るために、大学の仕組みや決まりなどについて理解すること。 ・大学での学びに求められる、文章読解やレポート作成に関する基礎的なスキルを身につけること。 ・オムニバス授業を通して、さまざまな学問分野に触れることで幅広い教養を形成すること。 						
履修条件	特になし。							
アクティブ ラーニングの 方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との 関連性	本科目のオムニバス授業が、1年次後期の「教養導入ゼミ」(必修科目)の履修希望クラスを選ぶ際の参考となります。							
教科書	なし。ただし、必要に応じて担当教員から資料等が配布される場合があります。							
参考書	必要に応じて担当教員が授業時に紹介します。							
評価方法	100点満点のうち、①33点分はオムニバス授業に関する課題によって評価します。オムニバス授業担当教員(11名)が各3点満点で評価した結果を合計します。②その他の67点分は各クラス担当教員が平常点(授業への参加姿勢、クラス独自の演習や課題への取り組み状況など)で評価します。これら①と②の合計点が皆さんの得点になります。							
フィードバック 方法	質問・相談等は随時受け付け、回答・対応します。疑問や問題を抱えている場合は、そのことを恥ずかしながら、担当教員に相談してみてください。							
評価基準	授業に積極的に参加して、学習した内容をよく理解し、課題を達成できた者にはその程度により「S」または「A」、不足がある場合にはその程度により「B」または「C」とする。参加度や達成度が著しく低い者はその程度により「D」または「E」、6回以上欠席するなど判定不能な者は「F」とする。							

授 業 科目名	【G】	-----	区 分	開講年次	【G】-	単位数	【G】-
	【H】	-----	必 履 修		【H】-		【H】-
科目名	【I】	入門ゼミ			【I】1		【I】2
授業内容	<p>【この科目での学び】 ※ I の2、3は学びの例です。具体的な内容は、担当教員から提示されます。</p> <p>< I . 大学生活のウォーミングアップ ></p> <p>1. ガイダンス (1)「入門ゼミ」とは(初年次教育の意義) (2)仲間をつくる(自己紹介)</p> <p>2. 大学について知ろう (1)清和大学とは(君津学園の沿革、大学の特色) (2)大学の仕組みを知る(semester制、履修登録、出席要件、成績評価、単位取得など) (3)大学の施設・設備をいかに活用するか(各施設の紹介と利用方法) (4)大学生活4年間をどう過ごすか(キャリア形成、学生を取り巻く犯罪への予防、将来の展望、資格の取得など)</p> <p>3. 大学の学びを知ろう (1)授業にいかに関与するか(受講の姿勢、予習・復習の意義、ノートの取り方とその活用など) (2)本や新聞をいかに読むか(情報の収集、読解・分析など) (3)レポートをいかにまとめるか(要約、引用のルールなど) (4)発表をいかに組み立てるか(資料の収集と分析、効果的なプレゼンテーションなど) (5)試験にいかに関与するか(日頃からの準備、復習とノートの整理など)</p> <p>< II . さまざまな学びに触れる(オムニバス授業) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期に教養導入ゼミ(必修科目)を担当する専任教員の授業動画を視聴し、課題に取り組む。 ・教養導入ゼミの履修選択(履修を希望するクラスの選択)の参考にする。 <p>< III . 振り返り ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担当教員と半期の授業を振り返る。 						
予習内容	<p>必要に応じて担当教員から指示がありますが、具体例は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考書の指定された範囲の通読や語句確認 ・発表資料(レジュメ)の作成 …等 <p>授業1回ごとの標準的な予習時間は「授業1回分と同程度」を目安としてください。</p>						
復習内容	<p>必要に応じて担当教員から指示がありますが、具体例は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布された資料の再読や不明点の再検討 ・発表資料(レジュメ)の改訂 ・質疑応答で回答できなかった部分の再検討 …等 <p>授業1回ごとの標準的な復習時間は「授業1回分と同程度」を目安としてください。</p>						
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・演習主体の科目であるため、授業を休まずかつ遅刻せず出席して積極的に取り組むこと。 ・原則として対面授業で実施しますが、一部の回をオンライン授業として実施する場合があります。 <p>※功リ:【必修修(〇え)】</p>						